

プレコンセプションケア⑤

妊娠する前に知っておきたい
女性の特有の病気のこと

子宮筋腫(きんしゅ)

女性特有の病気(婦人科疾患)について

- 女性特有の病気があります。頻度は低くても妊娠の成り立ちや妊娠経過に影響する場合があります。

これらの病気の影響を

①その病気が妊娠に与える影響

②妊娠がその病気に与える影響

にわけて考えます。

今回は、**子宮筋腫**についてです。

※妊娠可能年齢女性の20～30%に子宮筋腫がみられます

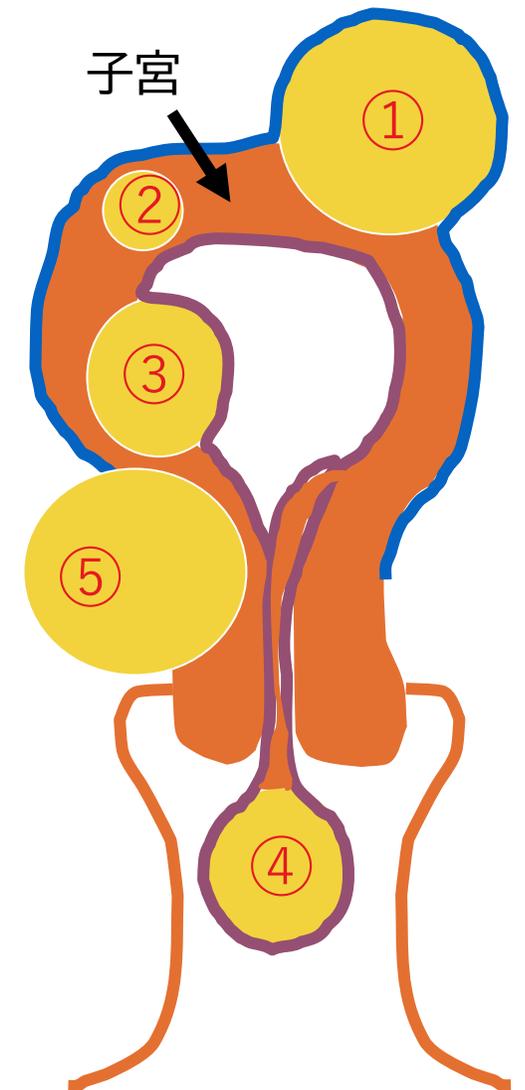
子宮筋腫とは？

子宮は妊娠を抱える臓器で、袋状の筋肉(平滑筋)でできています。

筋腫は、その筋肉がこぶ状に腫れた**良性腫瘍**です。右の図のように色々な、でき方があります。できた部位や大きさによって症状が異なります。

子宮筋腫があっても、①②⑤は**通常、無症状**です。**無症状で大きくなり**、大きくなって初めて、下腹部の圧迫感(尿が近い)や月経異常が起こります。

ところが③④は小さくても**症状**があり、**月経が多く貧血**になったり、**不妊症の原因**となります。



※筋腫は、赤ちゃんの頭の大きさくらいになることも珍しくありません

妊娠前に子宮筋腫がわかった場合

- 無症状なら経過観察や妊娠希望がないなら薬物療法の選択も可能です
- 不妊、月経過多、貧血などの症状がある子宮筋腫の場合
長径が5～6cmを越える子宮筋腫の場合
 - ➡子宮筋腫の摘出術(核出術)が提案されます。
筋腫ができている部位や大きさによって、腹式手術(おなかを切る手術)、腹腔鏡下手術、子宮鏡手術(子宮の中にカメラを入れて切除する)が選択されます。
- 子宮に切開が入った場合は一定期間(3～6ヶ月間)の避妊が勧められます。
- また、出産する場合は、陣痛前に帝王切開を選択します。

妊娠後に子宮筋腫がわかった場合

➡子宮筋腫合併妊娠

頻度:0.1~12.5% 年齢と共に高率になります

子宮筋腫が妊娠に与える影響

- 異所性妊娠(子宮外妊娠)
- 流産、早産(切迫早産)
- 胎児発育不全(赤ちゃんが小さい)
- 胎盤早期剥離(急に胎盤がはがれ、母子共に危険)
- 胎位異常(さかご)
- 産後大量出血
- 帝王切開率の増加(20~58%と高率)

妊娠が子宮筋腫に与える影響

- 筋腫サイズの増大する(約70%のケースで妊娠前より大きくなるという研究報告があります)
- 妊娠中に子宮筋腫の変性、炎症を起こす(約20%のケースで筋腫に痛みがでるといいう研究報告があります)
- 産後、子宮筋腫に感染が起こる(生命を脅かすこともあり、子宮摘出が提案されます)

おすすめ!

1. 子宮頸がん検診の時に、婦人科超音波検査も受けましょう
2. 生理の量が多い(血の塊が多い)、検診で貧血と言われる、子どもができにくいという場合は、子宮筋腫も考えましょう
3. おなかが出てきた、スカートがきつくなってきたという場合、「太ったなあ!」と早合点せず、卵巣腫ようや子宮筋腫が大きくなっていないか産婦人科クリニックを受診しましょう